女訓

賢女心經 五

660
5

賢女仏化粧

五之巻

第一

明治三六年九月十一日購求

門 連3
號 660
巻 五

同孫

賢女仏化粧 五之巻

夫れ張桃花の幡は流れを汲む極女の真
実を表して塔の元に立ちあがる八の紫昌の里
女人の名は地獄仏は極楽九重の雲の
姑よりへいさうぶつ孝仏そんか

才二　金持ちの沙金持ちの百姓笑氣
田舎を芝居に出す仕方
藝ふ[illegible]の有友を亜い俳諧の新作
[illegible]こんせて[illegible]いまとゐ[illegible]家地

才三　名人と世上の[illegible]の細術の持論
[illegible]を探し男の[illegible]の[illegible]
南[illegible]の横[illegible]れ[illegible]のお[illegible]
[illegible]ふ[illegible]の[illegible]の女[illegible]

[illegible]長[illegible]枇杷の蝋燭流を立て[illegible]の女の[illegible]
[illegible]ふ。傾城[illegible]女いろ[illegible]く実[illegible]。[illegible]を[illegible]人を
[illegible]と[illegible]ひ[illegible]て[illegible]れ女[illegible]を[illegible]て実[illegible]く[illegible]る
女[illegible]「判[illegible]の[illegible]れ[illegible]の[illegible]の静[illegible]我
の[illegible]ゆ[illegible]と[illegible]る。大[illegible]の[illegible]ぐ人の素女[illegible]
[illegible]。素の[illegible]て。[illegible]る大[illegible]
[illegible]ひ[illegible]。笑[illegible]男に[illegible]方[illegible]を女の[illegible]
[illegible]を[illegible]て中[illegible]の出合[illegible]
[illegible]。[illegible]づき[illegible]
[illegible]ひ[illegible]の[illegible]
[illegible]て[illegible]。[illegible]
[illegible]の[illegible]

と今の新潟の新町にひとくぐりやとりてやまとの女房とて
金屋の新兵つき山ずと地獄の庵よりの八幡宮の門より
横町の一條寺に中納言殿お供ひして御ぐりんの二女二人
ありて。おやのもとにて。もとてちびれ。白髪ちぢれに
のりの作はんやうけ。毒虫の毒ぬきとりのぬりつぼ。大和
うるまれ付わて。人さのやざる世をかいぬぐ。古代い男を抱へ
作ると。傾城花女の見信くらいのいたづらをかくる。須弥
花若の住む。中宮すぐれてかのうの女獄。姿容顔ありて。奴
宮をある世。ひとり住む山乃小蓮。ほとくびかりて。
付しかびのくわりて。我名を地獄とつけ。ひかる大根の女の
つるしかのめで。我が山寺の一体。高野山の阿弥陀堂
ひとりぐらいの。彼地獄とふ世のもの

あんど　とあそびてそれが。花女ぢぐうり
とうふ　とうふ　とうふ　とうふ　とうふ　とうふ　とうふ
どうふを売りて。世をわたる。
花本ばりの。色花よりに。二年前の。
なる行長。ひとり人。浦ひしばを世ばり。
ひとり。ひとりの。母はもしは世のもの。
在里へ。ひとり。地ごくふ。ひとり。
今は。母の。宵祭。
あひ。ひとり。十年。
まで。行ひやうに。
家さん。編の三ツ。

の業なりけり。毋ごひしてうれとけ〻し。式い大尽の酒すに酔さ侍と
都てを栽いありて。萩の神がきちろふるぐろ。ゑかゝぐろ
して。人のそれつゝね桂のゐ法。男て来づせ毒て。がいまたく馬ゐ女
いゐまぎき事ぐ。おてゝぐ。たゞひの間ぱゝの神さわしてどそれ
とゝろれ。女まゝあねぐおさまゝせな。りしたち条ちぐ〻記結ゐ
毋ろ。来世いゝろ人ゝあてと。地ぐゝ俗のゐい間てのゝろ〻ぱのつゝ
いりゐと。孫男ゝうれぐ。付てのる老女の枕ゝゝてどゝく。茂字し
て人ゝぐゝのたゐゐ法毋よ。正月茶をする大尽をれいすて。毋之の
ついゝのゐゝあゝぐゝのゝ貧。親ちぐのたまれ。ゝゝや出ま〻ゝらく。
ゝゝいゐゐと月ぐゝゝ。月まぐひする和ゝゆくゝる。毋まれそ人ゝ月
今毋ゐゝゝも。ゐ親のけのゐゐゐのゐゐ。三十越ていゝのゐよれついて。
ゝのぐゝも。墓もとのぐゝゐゐ。ゝ実織ぐでもゝゝ。

ひぐゝいゝのゝ。ゝまぐんゝくゝゝてゝ。大尽の妹さ毋方へゝぐゐ法
をつゝゝられて。宮ゝくゐゝゝ。ゝゝゐ中ゐ三一枚ぶ判ゐ毋ゐ商
ハそぐ。三月ゐ伏も日のゐゐるい人ゝのゝ。ゐ。ゝゐかゝら
ねゝのゝ。ゝゐゝゐでいゐけ仕ぐも。毋ゐれゝ。ゝまつぐ。宮年ゝ業の事い。
ゐ及びまたゝ残ゐ。ゝの男ゐ毋宮ぐする毋ゐの。ゐ方の内と年ぐ
ゐて出れ。時ゐのゝゝのゐそ。ゝから。ゐゝ毋ゝ。ゝゝと宮出ゝゝ
つゝゝのれぐゝのたゝゐゝと。ゝ。ゝ。ゝ

墨染の袖の絡とし、そう。閑の袖を絡てくるとおぼしめしまゝ
ぬるまぬそ。るわ世界を若にてやび姑と孝行わてまのゑを紫り
ぞ絡つゝ分を捨てそうけびゝ。むゝの涙ゝうゝそ。俤子のたすき
小。古風ゝ茂のあぐゝ仕る。紙ゝげを結ゆ。ゆるゝびゝて。ゑへ現くこ
味線とゝ。ゝ拾ゝ。ゝ。ゝすの撥木もつそまゝゝ。ゝゆゝ。ゝ。ゝ。

張物屋
けいせい
ぢぐく
ろまえよりの
出ていの
よりぐもろ
よいや〳〵
よかろ〳〵ふのひて
ろまえよりわいよ
さういるその
色男

女がうちぐく
ちうしめ巻め
のためうんご
めををひく
ちうこめ
まんぎ
てしろぶ
根ヤ髪せん屋
せんをい
よかろ〳〵
ちんだい
うりて
かへろ

姑のいをいとうんと門のやしきに法とわかづまるげづとうこんが母へ盗
下に金そのと合て婿と指くしゆのづくと法ぺ今和尚紙とけい
せい町へ行ぺ地ぐうこゆつ女ようとうれて時ふうとも母に
孝ぐさすぺけいせいとしさつての時つのとぺ蓮さのをそうしゆた
そーはとぐりいうこうのとうひまったそれぐ姑と孝行なぜい世界ふ
みおーつぺをかーうーたんぐじの人と知るバそれらのひーろうこ
行とちうまいりのとぺゆるーてトされぺみるれば妻をるる死
しおりぺるかいりと他人うるふぺ仕ようとして我と孝とけて。
人ぺで人と色せれて学紀ろしたを勇がまづきと法世といて
りぐ。腰膝のころ埃ぺ汚ぐおりぺ中かぺをけてるづ〜国
子こ抱てりてる。女のかぐりろをとを責代ぺ酒と酒酔あて
ぐさ〜孝ぺいつの世ーし世をとを見ぐと涙をぐり怪びこゆ。

れぐとぺよのとをんうぎりるれ色にぬ〜法一門女他へ松女ぺ孝〜
るん孝ぺのあ〜感ぐて。ぺ表打ぐてるんぺ時とよりにあてぐひ
商さセくうふぺのまーに利とわて者のごく堂へくぺいの地獄と
いんぐぺ。ぺいれ系の池のまきのに姑ぺ。世の後ぐ苦しいぬ〜
人ぐ行い汐合村と松打の百姓笑氣
牡牧ぐ汐房ぐの場ぺ。一人のぺいぐ女人のぺ乃
うーうやけるぺいうぺ。ぺ〜ぐ十人並の仕ぐそ。ぺ牡
云の体利をぺ抱り人ぐぐのかいう牡云の涙いぺん彼いるうーぺ人
の行ぐ汐才にいうぐそ。行を仕ぐ。ぬ〜ぐ。ぬ〜ぐ。ぬ〜

なきけがらしてうちうれをいたさせいたさんあはれにおもひ
よへどころなくうつろふをとんこんぱやたちうつる事にあねどやぎりんの
住くらいの所をおもてをたんのれいとやしんにんをかくしてうるはしき
そのうつくしきをいたはりなわるるに一宗にあれいをを和津乃
者したがおそ意地のかしおもてをあるとうとうとう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆゑ。ねり道の方。そこの秋のけしき。名所と紅葉。
より日すがらと。ほの代表。彩ひ。ぐ。ひとさ彩。彩ひ。ぐ。ひとさ彩。彩ひ。ぐ。ひとさ彩。
更後者の中。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。
とい。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。
足。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。
ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。
の。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。
ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。
よ。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。
門。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。
ア。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。

ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。
ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。
ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。
ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。
ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。
ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。
ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。
ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。
ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。
ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。ぐ。ひとさ彩。

ゑとゝ申ていとすべであ申ゆ人ゐ
まづ。おゝと叫ゝ姑ゆゝとゝ申しち
人どれゝゝれば。姑ゆゝそ。相りゝゝそ
人ゝわゝゝゝ。宅ゝ。ゝゝ。ゝ。ゝ。

ゝ。ゝ。ゝ。

ぶるたさ
ぎおろ
やしき
ぐんん人
ときの
たいこ打て
まろる
おうぢ
らいげん
とだま
しかよ
もろ
ぎくむ
ぎナ
ときのちん
ぎくしてきる
ぶと

よめの
ふくぞう
そそうて
ぶどう
ねばよいが
ぶんえ
ぶんえ
こんぶう
ぶもろ
さこ分
ぬし
ぶくや入
太夫

されども今ごろ珍しい雄いねがつひとい結婚房がわるくてとうとうなんと考へる世の人に病ひ婦人い男といらづいもて西遠いとつねたそのみてて
仕てこるひろふたりあり。自女突女いとて世に人々の世に稀なり。
ひとの今氏といあいまま大桂と弟よ切にて言にて虎もとれて近去
しとうろ今何の女中い行はてらてそ結ひ男とげとびとこの中の
ちひりとと弟のとれまりるとまりとしづきもるとの所の結ひ男まのこ
の白とれとその治みれのとるの長まとられば狐の口小豆合とつき付と
中の女の長魚とうはいと我長男ゆく女ごぶづとこ所んして鬼のそ
れとゆかれとかいとあいとゆきの方ともあいてはとて人接所
のの白鳥やの長ちに仕人とるる侍の所のとひあいんさとに人に若上系に
結金行結とてとされる去関係に人まとの方なとや合高分のいと
みとて実実のといとひとるれい治術結局の者板と出されるる門牙

あまとに茶う。れのの内かかれ外く。ぶ所ちとつてい行ちるれ考てかちろ
ける。結ふ友ちいもれるとそ死せれ。長ちと長所とけ考て。お
業とけとれしけ。ば笑長男ひて。そとも軍船と考く。海平もとけ肺
肝を探う。第ひ名ちるさんが。行人のとひ行。ぶの結ち長の長ぶるとて
あれい。結局ひしいさかう。今いひ所ようとめ。れ。之系はとれて行て。
れよのひてこたいとる。れれば。あちとちよかけ。紀友ちねけのひと家表
みてとてされと。結ひのれまるひいい。何のはとりあめぐと門牙中ちられ。
あふ。武家方の結。系結ち。編付さ女と長紀のひなる。結さ口とひ系し
て結方紀いのと。結紀して半尾結ち。ちと紀めう。ちと日と探と。極れ。ちとどれ。ちる
ひ嫁ないお祝といて。平八十八新のひとに郎ちる。愛も上。風ちとく
肥もひと。夜ちもびひ。ひます一ひて。ちんとひびひと。ちも愛に上結ちの
あるい。形とちるい。結出。結ひて。ちちろ女の仕合。結ちもちるとこ。ちる形と。

咽とうさんすなりけるぞんくわけ
まるの中しまるこ。京りとうとうれ。
さう常水雷とうの去ぬ。はお祝
すぬ。ぬ所ちうよ拾せ作しまとう
ぬびく。まるの人ちは拾新ぬく
せの新しとうぬ。京新しとうぬ
ちとてかく去作て。毎ねく書けし
ぐるぬの拾ようん完ぬ。二月まる
年ぬのねことけうんねとぬ。
面けのはる中とうく。年は深の拾
ぬぐいとる紙。いの方拾と新拾
るはうんと。深の力とひとうほうと
雷とも拾ぐうぬ。ぬびしひとうとうんぐ
ぬひつう雷とぬどう中ぬらかるぬ
りひうくれ今ぬるう。ちとうよ中くう
分ぬくて来び入くれるぬ。ぬ新とう
ぬいしぬのすひとうぬ拾ねとんぬ拾
ちとうぬぐ乃ぬすはず。ひうくいうう
いうて又やる。ぬ拾ぬとう男いうい新
拾ぬとぐうぬ不動の去ぬとやうう中ひう
てぐうう深ぬいぬの男いうて新けるう
拾入せい新の今ぬれるう深ぬうんぐ
深いうく深ぬうぬ。ひ作ぬ年ぬてい方ぬ
まぐぬ。ぬうんの力とかるんう深ぬ拾

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]